



Topic

経済日誌 〈3.1〉→〈3.31〉

国内外



3.9◇実質賃金、13か月ぶり増

厚生労働省は、1月の毎月勤労統計調査(速報、従業員5人以上)を発表した。1人当たりの実質賃金は前年同月比1.4%増加した。プラスは13か月ぶり。賃上げにより基本給など所定内給与が3.0%増と、33年3か月ぶりの高い伸びを記録したことや物価の上昇が鈍化したことが要因となった。

3.18◇訪日客数、6.4%増

政府観光局は、2月の訪日外国人客数を発表した。前年同月比6.4%増の推計346万6,700人と2か月ぶりのプラスで、2月単月では過去最高だった。韓国、台湾を中心に東アジアからの誘客が好調だった。中国は、春節(旧正月)の大型連休があったが、3か月連続で前年同月を下回った。

3.18◇貿易黒字、572億円

財務省は、2月の貿易統計速報を発表した。輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は、前年同月比で89.8%縮小したが、572億円と2か月ぶりの黒字となった。対米輸出が3か月連続でマイナスとなったものの、アジア向けに半導体などの電子部品の輸出が伸びた。

3.23◇賃上げ回答、平均5.26%

連合は、2026年春季労使交渉の1回目の回答集計を発表した。基本給を底上げするベースアップと定期昇給を合わせた賃上げ率は平均で5.26%だった。25年の初回集計時の5.46%を0.2ポイント下回ったものの、前年に続く高水準となった。中小企業は5.05%と2年連続で5%台に乗せた。

県内



3.2◇高卒、県内就職内定率94.2%

秋田労働局は、今春卒業予定者の就職内定状況(1月末時点)を発表した。県内就職を希望する新規高卒予定者の内定率は前年同月比1.0ポイント増の94.2%だった。同局では、例年よりも進路変更をした生徒が多く、内定に時間がかかる傾向が見られたとしている。

3.12◇景況感、2期連続悪化

財務省秋田財務事務所は、1～3月期の法人企業景気予測調査を発表した。県内企業の全産業の景況判断指数(BSI)は前期から14.6ポイント悪化しマイナス11.5だった。大雪や物価高の影響で、観光業や小売業といった非製造業の悪化が目立ち、全体を押し下げた。

3.17◇公示地価、3年連続プラス

国土交通省は、1月1日時点の公示地価を発表した。県内の住宅地や商業地を合わせた全用途の対前年平均変動率はプラス0.9%(前年は同0.7%)と3年連続のプラスとなった。経済の緩やかな回復により土地の需要が堅調な秋田市が全体を押し上げた。

3.24◇県人口、87万2,106人

県は、3月1日現在の県人口が87万2,106人(前月比1,497人減)と発表した。この1年間で、自然減が1万3,453人(出生者3,159人、死亡者1万6,612人)、社会減が3,735人(転入者1万1,544人、転出者1万5,279人)となり、県人口は1万7,188人減少した。